

都市再生整備計画 事後評価シート  
北の防人大湊地区  
(原案)

平成27年12月

青森県むつ市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	青森県		市町村名	むつ市		地区名	北の防人大湊地区			面積	510ha				
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,316百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		<b>事業名</b> 道路【市道宇田水源地線、市道桜木町3号線、市道桜木町4号線、市道桜木町5号線、市道桜木町9号線】、公園【水源地公園(管理施設、園路、施設改修)】、地域生活基盤施設【北の防人大湊展望台ポケットパーク、北の防人大湊エントランスポケットパーク、広場(収蔵庫周辺、観光交流センター周辺)、情報板】、高次都市施設【観光交流センター】、既存建造物活用事業【地域交流センター(学習センター、収蔵庫)】 地域創造支援事業【案内サイン、便益施設(観光交流センター、観光交流センター外構)、撤去(公園管理棟、小屋)、備品倉庫整備】、事業活用調査【事業効果分析調査】、まちづくり活動推進事業【景観ルール策定ワークショップ、観光案内パンフレット作成】												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	<b>事業名</b> ①道路【市道桜木町5号線(駐車場)】 ②道路【市道スキー場線(駐車場)】 ③道路【市道(自歩行道)】 ④地域生活基盤施設【広場(女子寮周辺)】 ⑤既存建造物活用事業【地域交流センター(女子寮)】				<b>削除/追加の理由</b> ①市道桜木町4号線に駐車場を整備することとしたため ②事業内容の精査及び市道桜木町4号線に駐車場を整備することとしたため ③市道桜木町5号線への駐車場整備を削除したため ④地域交流センター(女子寮)整備を削除したため ⑤歴史的価値が非常に高いと判断され、保存活用についての検討を行うこととし、事業計画期間内の完了が困難となったため			<b>削除/追加による目標、指標、数値目標への影響</b> ①～③影響なし ④～⑤指標1に関係するが、指標及び数値目標は据え置く。					
		提案事業	事業活用調査【オープンカフェ社会実験】				観光交流センターの完成が遅れ、社会実験で検討していた内容の実施が困難となったため			影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路整備事業【市道桜木町4号線(駐車場)】				より回遊性の高い公園中心部に駐車場を整備することとしたため			影響なし					
		提案事業	地域創造支援事業【備品倉庫整備】				イベントなどで使用する備品の管理倉庫が必要となったため			影響なし					
	交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	北洋館入場者数	人/年	5,577	H21	10,400	H27	モニタリング	8,843	評価値	10,626	○	あり	各施設の整備・改修による、景観づくりや観光・交流ゾーンの形成により、回遊性の向上及びイベント回数の増加につながり、水源地公園への来訪者が増加した効果により、北洋館入場者数が増加した。	平成29年4月
	指標2	認識度調査アンケート	%	19.2	H22	75.0	H27	22.1	18.0	×	あり	●	水源地公園周辺を訪れる市民が少ない現状や、重要文化財をPRする地域交流センター(収蔵庫)や案内サイン等の整備が、アンケート調査時点では未完成であり、PR不足となったことから、目標値を下回った。	平成29年4月	
	指標3	イベント回数	回/年	3	H22	7	H27	3	8	○	あり	なし	観光交流センターをはじめ、公園、駐車場、ポケットパーク等の整備により、イベントの開催機運が高まった効果により、観光交流センターや公園内を活用したイベント回数が増加した。	—	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	観光交流センター入館者数	人/年	0	H22	/	/	—	50,959	/	/	/	カフェテリアやおみやげ店を備えた観光交流センターのほか、各施設の整備・改修により、誰もが訪れたいくなる環境が創出されたことやイベント回数が増加した効果により、多くの市民や観光客に利用されている。	平成29年4月	
4)定性的な効果発現状況	・「旧学習センター」を改修した「みどりのさきもり館」では、「花とみどりの講習会」などの花やみどりに関する催しが開催され、市民参加者からの好評を得ているほか、市内におけるみどりと花のまちづくりの拠点となっている。 ・上記の「花とみどりの講習会」への参加者に、「観光交流センター」のカフェで利用できるドリンク券を配布するなど、施設間の連携を図っており、相互の賑わいを創出している。 ・駐車用、園路のバリアフリー化のほか、ポケットパークや便益施設などの整備により、介護施設の入所者が団体で訪れるなど、新たな交流や憩いの場として利用されている。 ・園路、トイレなどの整備や景観づくりにより、散歩やジョギングなどで多くの市民に利用されている。														
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等							
	モニタリング	各指標の目標値の達成状況を把握する。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●							
	住民参加プロセス	対象地区における景観づくりを継続させるための景観ルールを策定するため、市民協働によるまちづくり手法として、ワークショップを開催する。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ●							
	持続的なまちづくり体制の構築	—		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ●							

